



加治川小だより

新発田市立加治川小学校 第5号

新発田市上今泉 366 番地 1 ㉿ 33-2435
児童数 280 人 (H30.9.7 現在)

ホームページアドレス <http://kajikawa-e.shibata.ed.jp/>



スポーツマンシップ

校長 猪俣 伸

猛暑が過ぎ去り、朝夕は涼しさも増し秋の気配を感じる頃となりました。

子どもたちは大きな事故や怪我もなく夏休みを過ごし、元気に学校生活を送っています。ご家庭の皆様のご協力に感謝申し上げます。

今学期は、4 学年初めの宿泊防災キャンプ(9/13,14)をはじめ、6 年親善陸上大会(9/27)、校内マラソン大会(10/5)、創立 10 周年記念式典・アート&ステージ(10/27)等大きな行事があります。子どもたち一人一人が目標をしっかりともち、各種行事を通して、人と関わることの大切さや達成感、自己肯定感をより一層高めてもらいたいと思います。

この夏休み中は全国高校野球大会が 100 回記念ということもあり、例年以上の盛り上がりを見せました。特に金足農業の快進撃(準優勝)に秋田県民の熱狂ぶりが連日のように報道されました。チーム全員が秋田県出身、第 1 回大会以来の決勝進出ということもあってか県民が一体となって応援している姿に感動を覚えました。

そんな中、大会史上初となる春夏連覇を 2 度達成した大阪桐蔭チームもとても印象に残りました。

このチームは全国から野球に卓越した選手がたくさん集まってくるそうです。当然、技能は高いと思います。しかし、技術もさることながら野球に対する取り組む姿勢が傑出していたように感じました。

この大会中、桐蔭選手が多くのホームランを打ちましたが、相手チームや投手を思いやってか派手なポーズをしてホームインした選手は私の記憶では誰もいませんでした。

また、試合中、相手の選手が怪我をした際、近くにいた桐蔭選手が手当をしているシーンを何度か見ました。試合終了後も、相手を讃える言葉や行動が監督からも選手からもたくさん見られました。アルプス席で応援していた同校の吹奏楽部も、相手チームがピンチの時に円陣を組み始めると演奏を小さくするなど、対戦相手に配慮を見せていました。この吹奏楽部も全国大会で金賞を 4 回受賞するなど、野球部にも負けない実力を持っているそうです。

このような行動は、おそらく『試合ができるのは相手チームのお陰』と相手チームに対する敬意の気持ちをもっているからだと思います。

以前、全校朝会でイチロー選手の野球に対する真摯な行動について講話しましたが、野球評論家の野村克也氏は、イチロー選手をこう例えたことがあります。

「優れた成績を残しても誇れない選手はたくさんいるがイチローは誇れる。心技体の全てをもち、人柄も誇れる。天才が、努力すると恐ろしい」

大阪桐蔭チームも、卓越した選手集団がまとまり、心が耕され、努力を重ね、油断もなければ驕りもない心技体を兼ね備えた素晴らしいチームだったように感じました。

スポーツは体力や技術を向上させます。健康にも役立ちます。そして、何よりもスポーツを通して、人(相手)に対する感謝の気持ちや尊敬の気持ちを養っていきます。

これがスポーツの良さであり、スポーツマンシップの本旨ではないかと思います。

さて、二学期は勉学・読書・食育、そしてスポーツの秋です。今月は、6 年生が参加する親善陸上大会、そして 10 月には校内マラソン大会があります。それぞれ、個々の目標をもち、自己記録の更新や少しでも上の順位をめざして頑張ってもらいたいと思います。

併せて、沢山の友達と一緒に競い合うことの喜びや、沢山の友達によって自分の順位や記録があることへの感謝の気持ちをもって、日々の練習に励んで欲しいと思います。